

第1回 生息環境専門部会

◆ 生息環境専門部会における検討状況

- タンチョウの営巣・定着に向けた生息環境構築
- 生息環境に配慮した社会ルールづくり

- 開催日時：平成29年2月17日（金） 16:00～18:00
- 実施場所：札幌開発建設部 会議室
- 参加人数：24名（委員8名、報道機関・事務局等16名）
- 参加機関：学識経験者、寒地土木研究所、長沼町、札幌開発建設部、（公財）日本生態系協会 等



【専門部会の様子】

営巣環境構築

- 遊水地内に高低差を設け、開水面とドライエリアを創出。
- 開水面の変化や流水環境は自然の遷移による形成を目指す。
- 遊水地内の植生遷移をモニタリングし、段階的な掘削を検討。
- 鳥類の砂嚢に利用できる小石の把握、状況により砂利搬入等
を検討。
- タンチョウの採草地エリアにおける採食利用の可能性を検討。

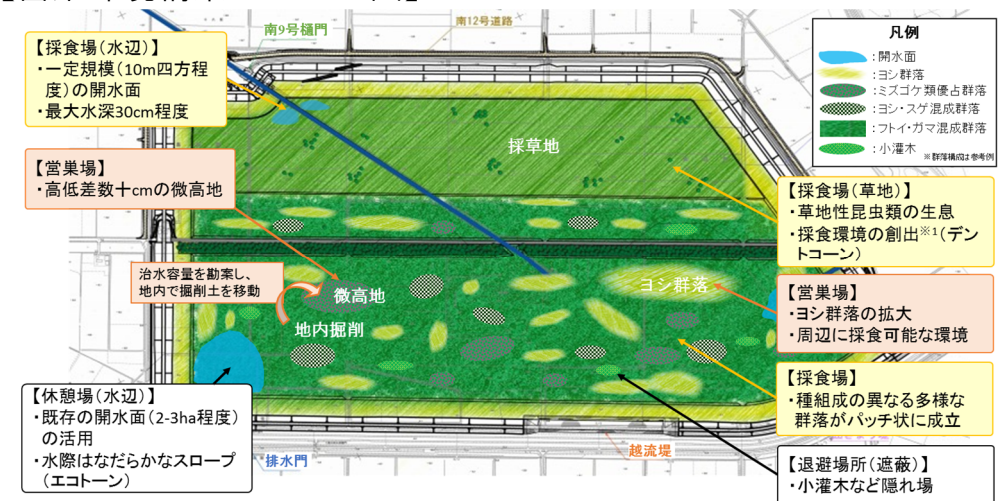
舞鶴遊水地の環境保全と利用

- 「環境保全と利用のガイドライン（仮称）」の検討を進める。
- 遊水地利用者に向けた鳥類への配慮について、啓発看板の設置
及び野鳥の会や猟友会など関係団体へ協力を依頼。
- 遊水地等における環境保全と利活用の普及方策、
活動を実施する主体等を具体的に検討する。

社会的課題

- 地域及び有識者と連携したアライグマ対策の普及
や効率的な捕獲方法の検証等の取り組みを進める。
- 食害の実態把握、調査手法等について引き続き議
論する。

【営巣環境構築イメージ図】



中村座長



今回、生息環境専門部会の取組方針が了承され、タンチョウの営巣に向けた進展を実感している。今後は、各取組について具体的に実施していくことが重要。

【啓発看板イメージ】

**野鳥を優しく
見守ってください**

舞鶴遊水地には、たくさんの野鳥がやってきます。
羽を休めている鳥たちを驚かさないように、
「**車から降りない**」「**近づきすぎない**」で
野鳥を優しく見守ってください。
ご理解、ご協力をお願いいたします。



※環境学習等で遊水地内に立ち入る場合は、野鳥の生息に
配慮して実施いただきますようお願いいたします。

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

※当日の議論により2/17配布資料を一部修正

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

第1回 生息環境専門部会 議事概要

〔日 時〕：平成29年2月17日（金） 16：00～18：00

〔会 場〕：札幌開発建設部 会議室

〔出席者〕：24名（委員8名、報道機関・事務局等16名）

（1）生息環境専門部会の取組方針について

○生息環境専門部会の目標及びそれに向けた短期的・中期的な取組方針が承認された。

- タンチョウの採食場・営巣場の創出に向けた、生息環境の構築に関する取り組み。
- タンチョウなど野生生物の生息に配慮した環境保全と利活用に関する社会ルールづくりに関する取り組み。

（2）営巣環境構築方策について

- 遊水地内に高低差を設け、低水位期の開水面維持と高水位期のドライエリアを創出する。
- 開水面の変化や流水環境は自然の遷移により形成されることを目指す。
- 遊水地内の環境の遷移をモニタリングし、段階的な掘削を検討する。
- 砂嚢に供給できる小石があるのか現状を把握し、必要に応じて砂利の搬入等を検討する。
- 採草地エリアにおけるタンチョウの採食利用の可能性について検討する。

（3）環境保全と利用について

- 環境省含むワーキンググループにより、「環境保全と利用のガイドライン（仮称）」の骨子案に沿った検討を進める。
- 遊水地利用者に向けた鳥類への配慮に関する啓発看板を設置する。
- 遊水地等における環境保全と利用の普及方策について、活動を実施する主体等について今後具体的に整理する。
- 遊水地内の鳥類への配慮として、野鳥の会や猟友会などの関係団体への呼びかけを行う。

（4）社会的課題について

- 地域及び有識者と連携したアライグマ対策の普及や効率的な捕獲方法の検証等の取り組みを進める。
- 高病原性鳥インフルエンザについては、環境省や自治体など関係機関が連携し対応する。

（5）その他

- 食害の実態把握、調査手法等について引き続き議論する。

以上